

平成27年度 保育所の自己評価

伊勢原愛児園

自己評価の観点	内容及び課題
保育理念	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの最善の利益を考慮し、子どもを主体とした日々の関わりや信頼関係の構築が出来た。 • 子どものやりたい気持ちを受け止め様々なことにチャレンジできたが、もう少し準備も必要だった。 • 理念、基本方針、目標等は「入園のしおり」等に記載されているが、保護者や地域の方々への周知が不足していると感じる。資料の配付等今後の検討としたい。
子どもの発達援助	<ul style="list-style-type: none"> • 健康、安全で心地よい生活が出来るよう、健康管理（健康診断・歯科検診等）や食事の工夫を行い、安心して過ごすことが出来た。 • 個々の子どもの発達段階や個人差への配慮等を共有するため、定期的に連絡会を設け話し合いを行った。 • 援助するだけでなく、出来るところは自分で出来るよう見守った。 • 個々の関わりのお大切さと集団生活との兼ね合いの難しさも感じた。 • 子ども同士のトラブルに対しても、すぐに声を掛けるのではなく、子どもたちで解決できるよう援助していった。 • アレルギー対応等共通理解をしながら対応した。
保護者に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> • 普段の子どもの様子を伝えるだけでなく、情緒の不安になっている子の変化も伝えた。 • 一人一人の保護者と丁寧に関わることで信頼関係を築いていった。 • 保護者支援の大切さを学び実践する事で保護者からの相談も多くなった。 • えんだよりに給食の献立等を載せることで保護者の要望にも応えた。 • 送迎時のコミュニケーションや連絡ノートを通し、また、保育参観や個々面談の機会を設け、保護者との共通理解を深めた。 • 年度末に保護者アンケートを実施し、できるところから改善していった。 • 地域における子育て支援がまだまだ不十分であった。
保育を支える組織的基盤	<ul style="list-style-type: none"> • 研修企画委員会や保育計画委員を設け職員全体で資質の向上を目指した。 • 外部の研修は計画通りに行うことが出来なかった。今後は計画的に実施していきたい。 • 行政や、保健・医療機関等との連携がとりづらい。 • 個人情報取り扱いや苦情解決の仕組み等、職員理解が不十分な面もあった。 • 安全・衛生管理や防災管理についても見直しが必要である。 • 職員の労働環境の改善等に努める必要がある。

以上、保育士の自己評価を踏まえ、保育所の自己評価を行いました。
結果をもとに振り返り、保育内容の改善、向上に組織として取り組んでいきたいと思ひます。